

中日新聞の運勢判断に**器用な者は骨折りの機会が多く、知能の秀でし者は心配が多い**とありました。全く穿った話です。日本の人口は二十七年後に二千万人減るそうです。人口が減ると言う事は全てに影響が出、先細りです。補助制度が出来てからの人口増加率と補助のない時代の人口増加率は大きな違いがあると思います。高校までの学費はそんなに掛かるものではなく、子供に掛ける費用は自己選択な訳ですので、無理に子供に金を掛ける必要はない訳です。減りはじめた一つの原因は女性が仕事に出なくては食べていけない家庭生活にあるのではないのでしょうか。今や嫁さん一人分の給料は借金返済に消えていくでしょう。借金があるから働けると思っている方も見えるとは思いますが、借金しなければ生活できない処に問題はあると思っています。政府の言う事が全て正しいとは限りません。日本には日本の風土仕組みがあるのは当然のことで、**無理に背伸びする必要はありません**。

四月二十日、京都の知恩院にて御忌法要が厳修されました。善入院からもバスで団参いたしました。式は莊嚴且つ厳肅な雰囲気に含まれる中で行われました。出勤された僧侶の方々が約二百名、二百名余の僧侶が称える読経や聲明は素晴らしく、参列者の魂に響き渡りました。これぞ結縁された者の特権です。佛縁を頂けた方々しか此の実感を肌で感じ取る事が出来ません。しまったと思っても時を戻すことはできません。古今和歌集に「花のごと世の常ならば過ぐしてし昔は又も帰りきなまし」と、年々歳々美しく花が咲くのと同じように、過ぎ去ってしまった良き昔が今に帰ってきてほしいものだ」と。くどいようですが娑婆の時間は戻りません。尽く尽界時々、一期一会、**命の運びは今しかないので。寿命は自身の裁量に非ず。余談ですが本来命は自分の思いで誕生し、逝去できるものではありません。**世の中、あくまでも気持ちの運びで実績が残ります。開かれた扉に入り沈思黙考するのも信仰の目を開く事に成りましょう。佛縁なき人は閻魔大王様にどんな言い訳をしても通用しないのです。**生まれた時から足跡が白道に全部残されているのですから。**人生金が目的ならば心定まりにくく、心の充実が目的なれば信仰の芽吹きで心に安らぎが得られます。義理や人情軽く押しつけ、事の軽重心に留めず 流れ流されての一生に成ってしまうか。尾崎放哉の詠に「大をそしる心をすてて豆の皮をむく」や「足のうら洗へば白くなる」と。知足と言いまして、智恵の啓発が身の丈に合った行動に導きます。洗心が身を清くすると言う事でしょう。神社仏閣にお参りしますと、境内の入り口に手と口を清める場所が設けてあります。手と口が一番罪を造りやすいからでしょう。足は口を止めると書きます。**口は禍の元、手練手管、と戒めの言葉があります。**人様との出会いを大切にしましょう。

中日新聞の「もう〇〇は古い」の中に「将来子供は欲しい。メールで募集中」。ネットで何でも手に入る時代ではありますが、心配です。便利になりすぎて思考力が衰えては大変な事です。どこかで営利に繋がるネットに頼りすぎはいけないと思います。例えば料理でも百万のユーザーが利用すれば百万人以上がその味になり、それぞれの家庭に合った味が無くなります。手順だけ学べば良いかと思えます。**ネットも使い方でしょう。**